使用説明書

お買い上げありがとうございます。このカメラを十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前にお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

目次

この使用説明書は1995年1月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせについては、本書裏面に記載の当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

フラッシュを使って撮影しましょう

有効にご活用いただくために

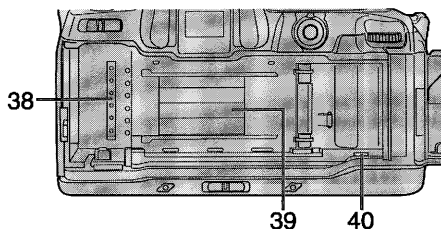
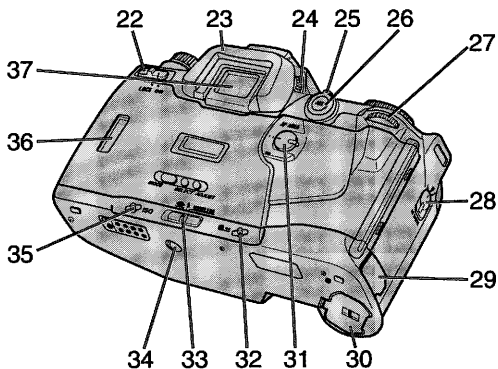
こんなことも知っておきましょう

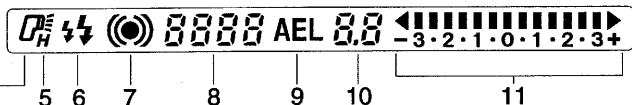
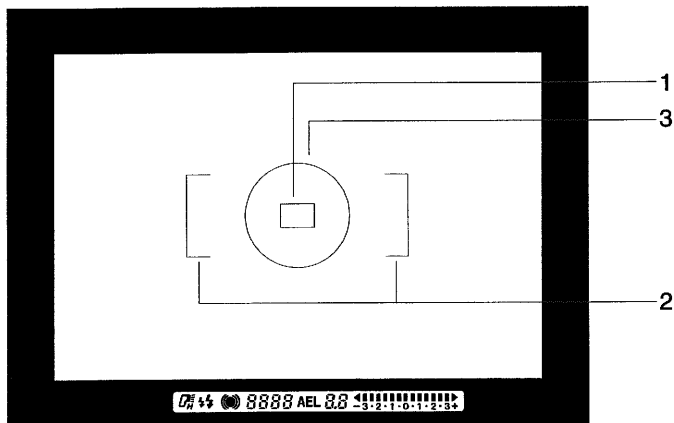
各部の名称 *印のついたところは、直接手などで触らないように気を付けてください。

<ボディ>

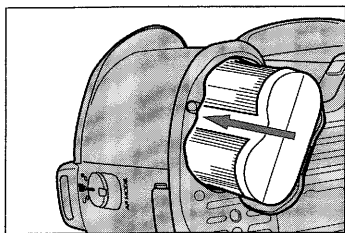
1.セルフタイマーランプ
2.前ダイヤル
3.シャッターボタン
4.ドライブモードレバー
5.露出モードダイヤル
6.ボディ表示部
7.内蔵フラッシュ
8.オートロックアクセサリーシュー
9.フラッシュ強制発光ボタン
10.露出補正ダイヤル
11.露出補正ロック解除ボタン
12.フラッシュ調光補正ダイヤル
13.ストラップ取り付け部
14.パノラマ切り替えレバー
15.裏ぶた開放レバー
16.フォーカスモード(AF/M)ボタン
17.レンズ交換ボタン
18.マウント標点
19.ミラー*
20.AFレンズ信号接点*
21.プレビュー(絞り込み)ボタン

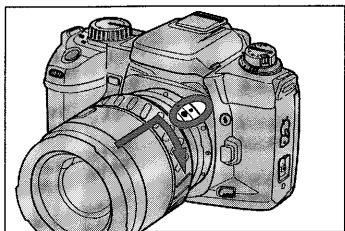
22.メインスイッチ
23.アイピースカップ
24.視度調整ダイヤル
25.測光方式選択スイッチ
26.AEロックボタン
27.後ダイヤル
28.AFモード切り替えスイッチ
29.リモートレリーズターミナル
30.電池室ふた
31.AFエリア切り替えスイッチ
32.途中巻き戻しボタン
33.フラッシュモードスイッチ
34.三脚ねじ穴
35.フイルム感度設定ボタン
36.フイルム確認窓
37.ファインダー*
38.DX接点*
39.シャッター幕*
40.フイルム先端指標

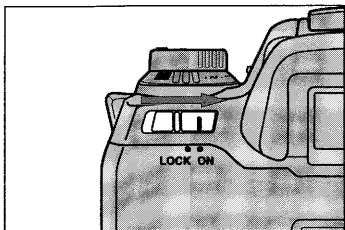
<ボディ表示部>

1.シャッター速度／フイルム感度表示
2.絞り値表示
3.フイルム感度マーク
4.マニュアルフォーカス表示
5.電池容量表示
6.パトローネマーク
7.フイルムマーク
8.フイルムカウンター／多重露光回数表示

<ファインダー表示部>

1.スポットフォーカスエリア
2.ワイドフォーカスエリア
3.スポット測光サークル
4.フラッシュ撮影表示
5.ハイスピードシンクロマーク
6.フラッシュ充電完了／調光確認／赤目軽減プリ発光／ワイヤレスフラッシュ表示
7.フォーカス表示
8.シャッター速度／フイルム感度表示
9.AEロックマーク
10.絞り値表示
11.測光インジケーター

この使用説明書では表示の点灯と点滅とを以下のように区別して表記しています。
点灯しています　点滅しています

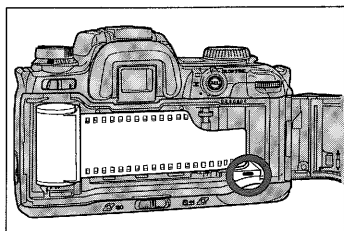
撮影早分かり（詳しくは本文をご覧ください）

1.電池を入れます。

電池（2CR5 1個）を、電池室のふたの表示にしたがって入れます。

2.レンズを取り付けます。

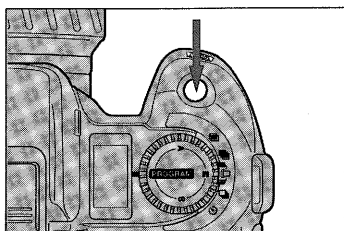
レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3.電源を入れます。

メインスイッチをONにします。
「ワンラインセーフティ」で、カメラが全自動の状態になっていることを確認します。

※ボディ上面および右側面にあるダイヤルやレバー上の指標が一直線にそろうように、またボディ背面の2つのスイッチ上の指標が水平になるように、それぞれ操作すれば、このカメラは全自動の状態になります。これを「ワンラインセーフティ」と呼びます（19ページ参照）。

4.フイルムを入れます。

フイルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

5.カメラを構え、ピントを合わせます。

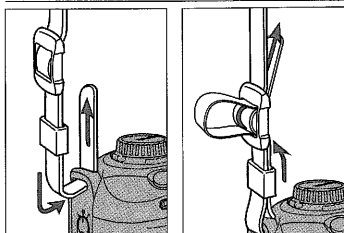
写したいものがフォーカスフレームに入るようにカメラを構え、シャッターボタンを軽く押します。

6.撮影します。

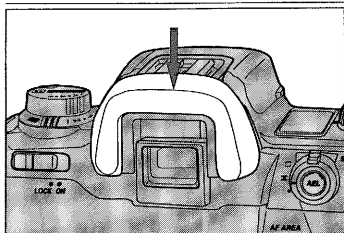
そのままシャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

簡単に写せます

この章では、撮影前の準備と、最も簡単な撮影方法を説明しています。初めてカメラをご使用になる方でも、この章をお読みいただければ簡単に撮影できます。

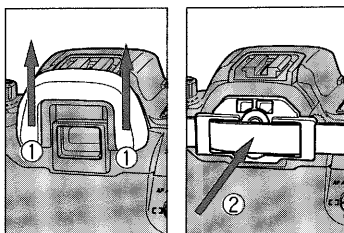
標準付属品の取り付け方

ネックストラップ

左図のように取り付けます。

●反対側も同様に取り付けます。

アイピースカップ

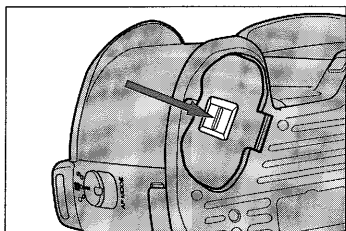
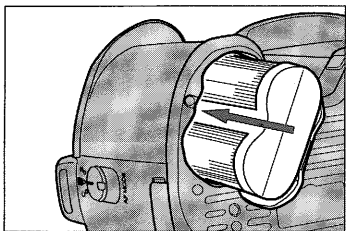
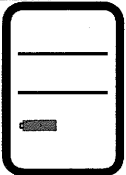
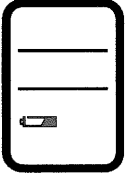
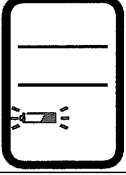
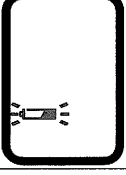
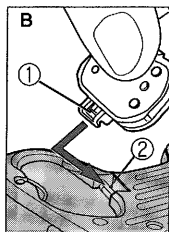
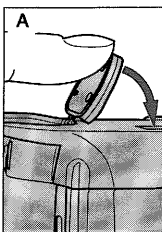
接眼枠の上から差し込みます。

アイピースキャップ

長時間露光（バルブ撮影）（44ページ参照）やセルフタイマー撮影（78ページ参照）で、ファインダーから光が入るのを防ぐために使用します。

アイピースカップを下から押し上げるようにして外し①、アイピースキャップをはめ込みます②。

電池の入れ方

6Vパックリチウム電池2CR5を1個使用します。

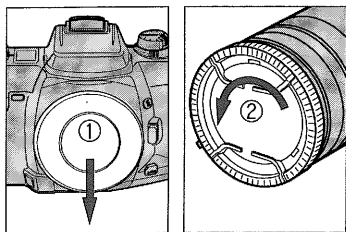
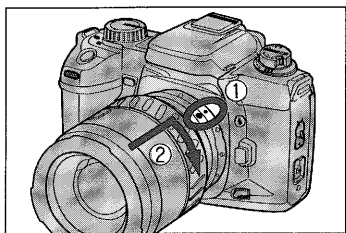
●リチウム電池のお取り扱いには十分ご注意ください(90ページの電池に関する注意をお読みください)。

1.電池室開放レバーを矢印の方向へ押して、電池室のふたを開けます。

2.電池室ふたの＋／－表示にしたがって電池を入れ、カチッと音がするまでふたを閉じます。

縦位置コントロールグリップVC-507を取り付けるときは、電池室のふたを取り外します。ふたを開け、矢印の方向に軽く押すと外すことができます(図A)。外したふたを元通り取り付けるときは、ふたの溝の部分①を電池室内の軸②にはめ込むようにします(図B)。

電池容量の確認

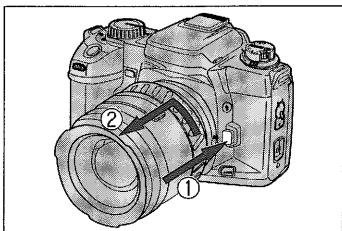
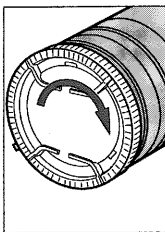
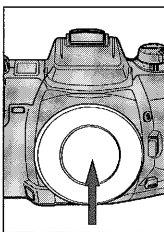
メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池容量のチェックが行われ、ボディ表示部にその結果を表示します。

表示	説明
	点灯（4秒間）——電池容量は十分です。
	点灯（4秒間）——新しい電池を準備することをおすすめします（撮影はできます）。
	点滅——電池を交換することをおすすめします（撮影はできます）。
	のみ点滅（他の表示すべて消灯）——シャッターは切れません（撮影できません）。電池を交換してください。

●メインスイッチをONにしてもボディ表示部に何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは電池を交換してください。

レンズの取り付け方

1.カメラのボディキャップ①、レンズの後キャップ②を外します。

2.レンズとカメラの2つの赤い点①を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します②。

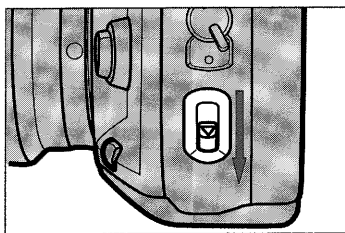
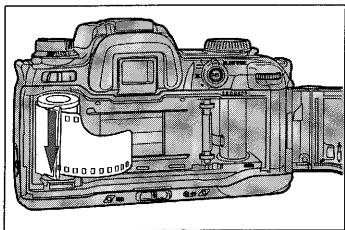
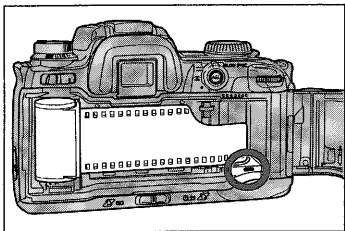
●レンズを取り付けるときはレンズ交換ボタンを押さないでください。
●レンズに無理な力を加えないでください。
●カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触ったり傷をつけたりしないよう気を付けてください。

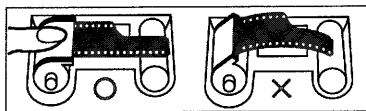
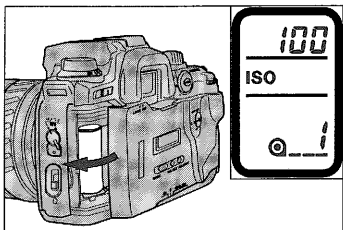
レンズの取り外し方

レンズ交換ボタンを押したまま①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

●取り外した後は、カメラ本体にボディキャップを、レンズに前および後キャップを付けて保管してください。

フイルムの入れ方

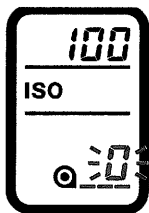
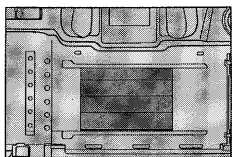
始めてカメラをご使用になるときは、フイルムを入れる前に、裏ぶたの内側にある保護シートを取り外してください。

保護シート

フイルム確認窓でカメラの中にフイルムが入っていないことを確認してから、裏ぶたを開けてください。

1.裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

2.フイルムを図のように入れます。

3.フイルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます。

●フイルムが浮き上がらないようにパトローネ(フイルム容器)を押さえてください。

4.裏ぶたを閉じ、メインスイッチをONにします。

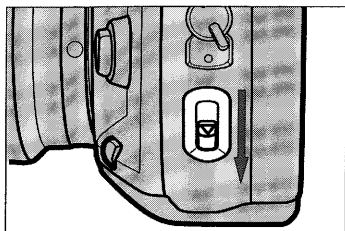
●フイルムが自動的に巻き上げられ、フイルムカウンターに“1”が表示されます。

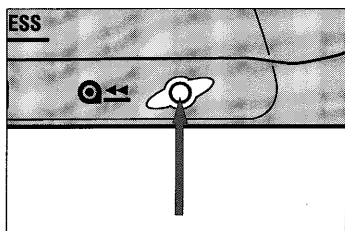
●DXコード付きのフイルムを入れた場合、フイルム感度が自動的にセットされ、ボディ表示部に表示されます。

●フイルムが正しく送られていない場合、フイルムカウンターは“0”のまま点滅します。このようなときは、もう一度フイルムを入れ直してください。

シャッター幕は、非常に薄く精巧に作られています。手やフイルムの先が絶対に触れないように注意してください。

●フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。
●ポラロイドインスタントリバーサルフイルムは、巻き上げがうまくできませんので使用しないでください。
●DXコードの付いていないフイルムを入れたとき、このカメラは、
感度→直前に入れていたフイルムの感度を表示します。
枚数→36枚撮りと見なします。
したがって、37コマ以上の手巻きフイルムなどを入れた場合、36枚目を撮影後自動的に巻き戻しが始まります。

フイルムの巻き戻し

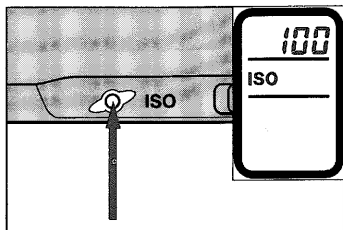
フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。フイルムカウンターが“0”になり、パトローネマークが点滅したら、巻き戻しは終了です。

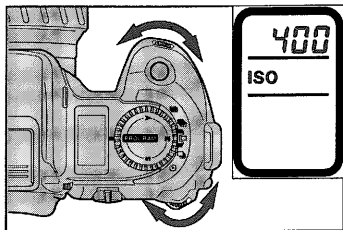
フイルムの取り出し方

1.巻き戻しが終了するまで待ちます。
2.裏ぶたを開けてフイルムを取り出します。

<フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいとき>

メインスイッチをONにして、ボディ背面の途中巻き戻しボタンを押します。

●巻き戻しの途中で、途中巻き戻しボタンを押すと、巻き戻しの速度が速くなります(巻き戻しの音は多少大きくなります)。

フイルム感度の設定と変更

DXコードの付いていないフイルムをお使いの場合は、以下の要領でフイルムパッケージなどに記載されているフイルム感度をカメラに設定してください。また、増感撮影など、意図的にフイルム感度を変更する場合も以下の要領で行なってください。

1.フイルム感度設定ボタンを押します。

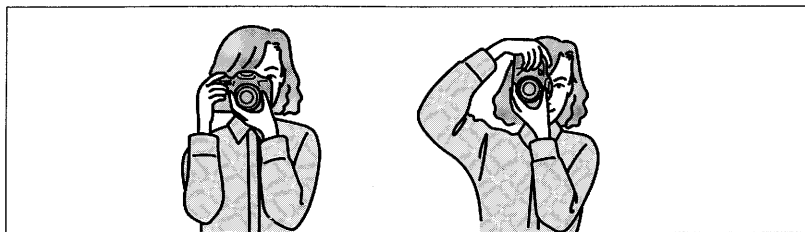
●ボディ表示部に現在のフイルム感度が表示されます。

2.前または後ダイヤルを回して、希望のフイルム感度を選びます。

●設定可能なフイルム感度の範囲はISO6～6400です。

3.シャッターボタンを軽く押す(半押し)と、通常の撮影状態にもどります。

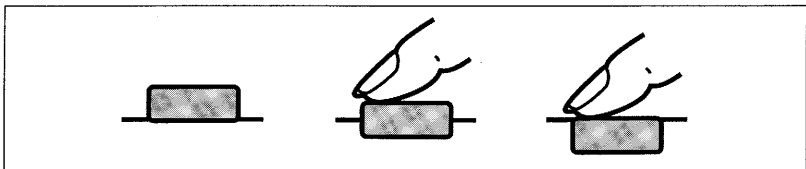
●撮影中でも、フイルム感度設定ボタンを押せば、現在のフイルム感度を確認することができます。

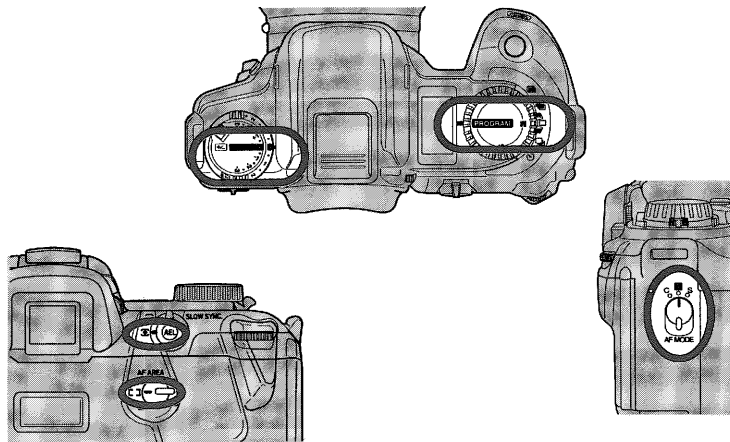
カメラの構え方／シャッターボタンの押し方

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- 片目をカメラのファインダーにぴったりつけます。脇をしめ、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュなしで撮影する場合(シャッター速度が遅くなる)や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は、しっかりとした三脚にカメラを固定して撮影してください。
- 別売の縦位置コントロールグリップVC-507やホールディングストラップHS-700を使用すれば、カメラの保持をより確かなものにすることができます。

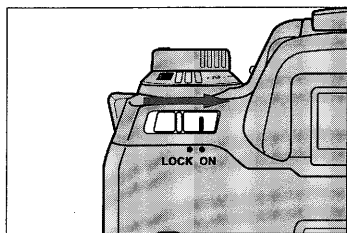
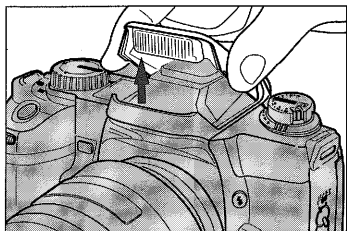
シャッターボタンの押し方

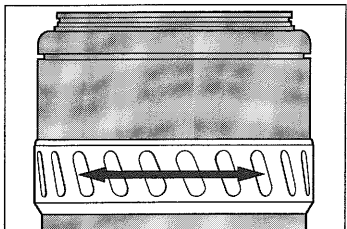
このカメラのシャッターボタンは、2段階になっています。シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。シャッターボタンを半押しすると、カメラはピントを合わせ、露出を決定します。半押しの状態からさらに2段目まで押し込むとシャッターが切れます。

ワンラインセーフティ

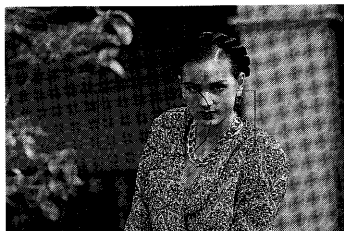
ボディ上面および右側面にあるダイヤルやレバー上の指標が一直線にそろうように、またボディ背面の2つのスイッチ上の指標が水平になるように、それぞれ操作すれば、このカメラは全自動の状態になります(下図参照)。これを「ワンラインセーフティ」と呼びます。これにより、このカメラが現在全自動の状態なのか、または設定が変えられている状態なのかを一目で確認することができます。

ワンラインセーフティを確認した後のカメラの状態は次のとおりです。

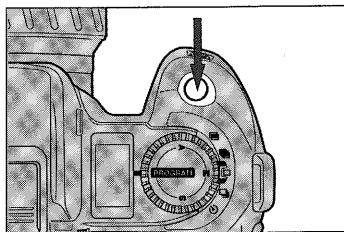
露出補正 .... ±0
フラッシュ調光補正 .... ±0
露出モード .... PROGRAMモード
ドライブモード 1コマ撮影
AFモード .... AF制御自動切り換え(A)
測光方式 14分割ハニカムパターン測光
AFエリア .... ワイドフォーカスエリア

●ボディ表示部に**M.FOCUS**が表示されているときは、カメラがマニュアルフォーカス(手動によるピント合わせ)の状態になっています。フォーカスモード(AF/M)ボタンを押して**M.FOCUS**表示を消し、オートフォーカスの状態にしてください。

全自動で撮影しましょう

1.ワンラインセーフティでカメラが全自動の状態であることを確認し（前ページ参照）、メインスイッチをONにします。

2.内蔵フラッシュを持ち上げます。フラッシュが必要なときは自動的にフラッシュ撮影になります。

●フラッシュモードスイッチは または に合わせてください。

3.ズームレンズを使っているときは、撮影したいものが希望の大きさになるようにズームリングを回します。

●AFズームXiレンズをご使用の場合は、レンズのAZ/MZスイッチをAZにしてください。

4.ピントを合わせたいものがフォーカスエリアに入るようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しします。

●自動的にピントが合います。

5.シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

●撮影後、フイルムは自動的に次のコマに巻き上げられます。

●フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻されます。

ピント合わせ(フォーカス)について

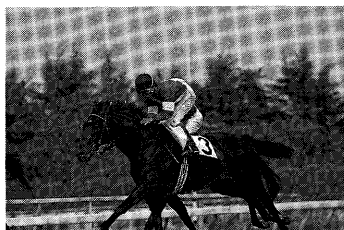
この章では、このカメラのオートフォーカス機能(フォーカスモード、フォーカスエリア)について説明しています。
また、写したいものが画面中央にない場合に、オートフォーカスで写したいものにピントを合わせるためのフォーカスロック(ピントの固定)の方法や、オートフォーカスではピントが合いにくい被写体にピントを合わせるための、手動によるピント合わせ(マニュアルフォーカス)の操作方法についても説明しています。

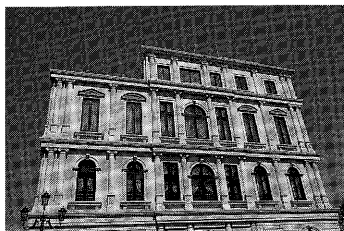
オートフォーカスモード

このカメラには、コンティニュアスAF(C)、ワンショットAF(S)、およびコンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わる、AF制御自動切り替え(A)の3通りのオートフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

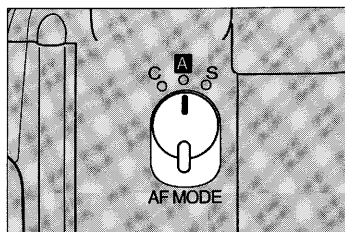
AF制御自動切り替え(A)

被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。被写体が動いているときは、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。被写体が止まっているときは、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定(フォーカスロック)します。そのため、シャッターチャンスを逃すことなく撮影に専念できます。人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。

コンティニュアスAF (C)

シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。
動きの激しい被写体、たとえば運動会の徒競争や競馬、鉄道写真、自動車レースなどの撮影に効果を発揮します。

ワンショットAF (S)

シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定(フォーカスロック)します。
ほとんど動かない被写体、たとえば建築物や美術品の撮影、あるいは接写・複写撮影などに適しています。

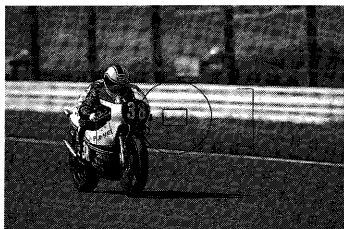
●このカメラは、AF制御自動切り替え/コンティニュアスAF/ワンショットAFいずれの場合も、ピントが合わないとシャッターは切れません。

AFモードの切り替え方

AFモード切り替えスイッチを、**A**、**C**、または**S**に合わせます。

●ボディ表示部に**M.FOCUS**が表示されているときは、カメラがマニュアルフォーカス(手動によるピント合わせ)の状態になっています。フォーカスモード(AF/M)ボタンを押して**M.FOCUS**表示を消し、オートフォーカスの状態にしてください。

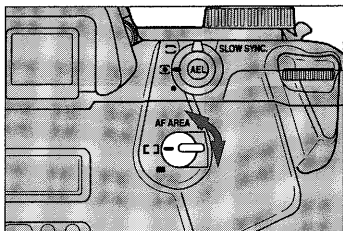
フォーカスエリア

オートフォーカスで撮影するときは、写したいものがフォーカスエリアに重なるようにカメラを構えます。このカメラのフォーカスエリアは、被写体をとらえやすいワイドフォーカスエリアと、部分的なところにピントを合わせやすいスポットフォーカスエリアの2つを切り替えて使うことができます。

ワイドフォーカスエリア

ワイドフォーカスエリア内には3つのAFセンサーが配置されており、広い範囲でピント合わせができます。そのため、フォーカスエリアをそれほど意識しなくても楽にピント合わせができ、スナップ感覚で撮影できます。また、スポーツシーンのように動きのある被写体でも容易にとらえることができるため、シャッターチャンスを逃しません。

スポットフォーカスエリア

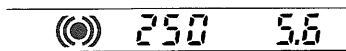
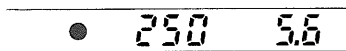
スポットフォーカスエリアの場合は中央の1つのAFセンサーからの情報をもとにピントを合わせます。そのため、部分的なところや細かな部分にピントを合わせることができます。サッカーやラグビーなど多人数競技でねらった人物を撮りたいとき、人物撮影で人物の目にピントを合わせたいときなどに便利です。

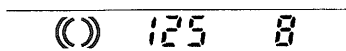
フォーカスエリアの選び方

AFエリア切り替えスイッチの指標を、ワイドフォーカスエリアにしたいときは[ ]に、スポットフォーカスエリアに切り替えたい場合は ▬ に合わせます。

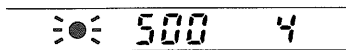
ファインダー表示部のフォーカス表示

250 5.6

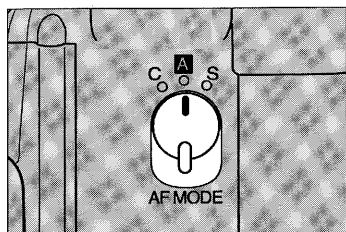
被写体にピントが合っています。

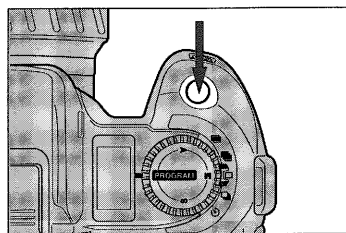
250 5.6

ピントが固定されています（シャッターボタン半押し後で被写体が止まっている場合）。

125 8

ピント合わせの途中です（シャッターは切れません）。

500 4

ピントが合いません（シャッターは切れません。31ページをご覧ください）。

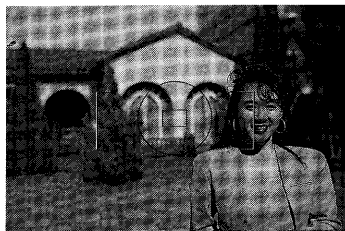
撮りたいものが画面中央にないときは(フォーカスロック)

被写体が画面中央にない構図で撮ろうとすると、被写体がフォーカスエリアに入らない場合があります。そのまま撮影すると、背景にピントが合って被写体がぼけた写真になってしまうことがあります。このような場合は、次のようにしてピントを固定して撮影してください。

1.AFモード切り替えスイッチを、**A**または**S**に合わせます。

2.ピントを合わせたいものにフォーカスエリアを合わせます。

● 250 5.6

3.シャッターボタンを半押しします。

●ファインダー内のフォーカス表示が((●))から●に変わり、ピントが固定されます。

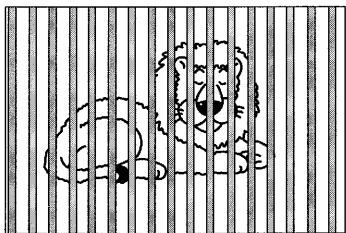
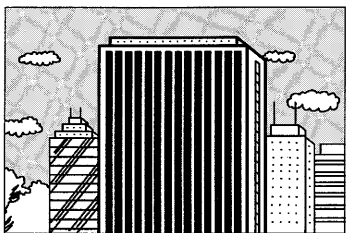
●AFモード切り替えスイッチが**S**のときは、ファインダー内にフォーカス表示●が出て、ピントが固定されます。

4.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にします。

5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

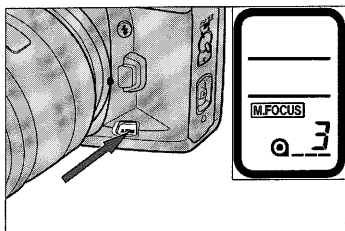
●AFモード切り替えスイッチをAに合わせていてピントを固定しにくい場合は、スイッチをSに切り替えてみてください。
●AFモード切り替えスイッチをCに合わせているとき、またはフォーカス表示の●が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)はピントを固定することはできません。
●14分割ハニカムパターン測光時(45ページ参照)には、ピントと同時に露出も固定されますので、シャッターボタン半押しのまま同じピント位置で続けて撮影する場合、被写体の明るさが変わると適正露出が得られないことがあります。

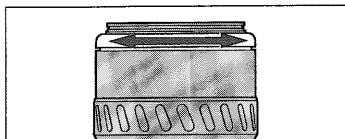
AFズームXiレンズの場合、ズームリングを手前に引いてピントを固定することもできます。また、フォーカスホールドボタンの付いているレンズの場合、ボタンを押してピントを固定することもできます。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

オートフォーカスの苦手な被写体

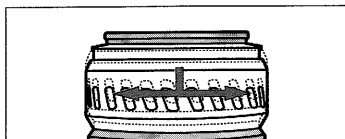
オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。したがって、以下のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすい被写体でフォーカスロック撮影(29、30ページ参照)するか、次ページの手動によるピント合わせを行ってください。

おりの中の動物など、フォーカスエリアの中に距離の異なる被写体が混じっているとき

オフィスビルの外観など、繰り返しパターンの連続する被写体

青空や白壁などコントラスト(明暗差)のない被写体
太陽のように明るすぎる被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いている被写体

手動によるピント合わせ(マニュアルフォーカス)

1.カメラのフォーカスモード(AF/M)スイッチを、カチッと音がするまでカメラ側に押し込みます。

●ボディ表示部に、**M.FOCUS** が表示されます。

2.<AFレンズ、AFズームレンズの場合>

レンズのフォーカスリングを左右に回します。被写体がもっともはっきり見えるところでリングを離します。

<AFズームXiレンズ、AFパワーズームレンズの場合>

ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体がもっともはっきり見えるところでリングをすばやく元に戻します。

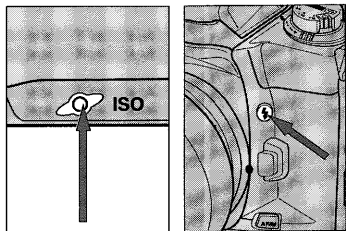
●オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします(28ページ参照)。

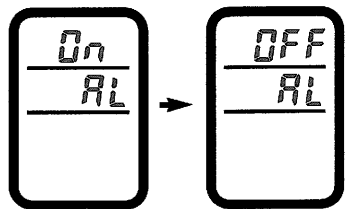
●もう一度フォーカスモード(AF/M)ボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります(レンズ交換や、メインスイッチをLOCKにして再びONにしても、オートフォーカスには戻りません)。

●14分割ハニカムパターン測光はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスにすると、測光方式は常に中央重点的平均測光になります(46ページ参照)。

ピント合わせのためにフラッシュが光ります(AF補助光)

内蔵フラッシュを持ち上げた状態で暗いところで撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときにフラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするために発光するAF補助光です。
この補助光が届く範囲は、1〜5mです(当社試験条件による)。

<内蔵フラッシュによるAF補助光を禁止したいときは>

1.フイルム感度設定ボタンを押したまま、フラッシュ強制発光ボタンを押します。

●ボディ表示部に**On AL**と表示されます。

2.フイルム感度設定ボタンを一度押します。

●表示が**OFF AL**に変わります。

3.シャッターボタンを半押しします。

●内蔵フラッシュによるAF補助光を使用したいときは、同じ操作でボディ表示部に**On AL**を表示させます。
●AFモード切り替えスイッチを**C**に合わせているときは、内蔵フラッシュによるAF補助光は使用できません。
●プログラムフラッシュを付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
●レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×-1×使用時にも、AF補助光は発光しません。

絞りやシャッター速度を変えて写真の描写を変えてみましょう

絞りやシャッター速度を変えることで写真の描写を変えることができます。これはコンパクトカメラにはない、一眼レフの大きな特徴の一つです。この章では、撮影者の希望する絞り値やシャッター速度で写真を撮る方法について説明しています。また、意図通りに撮影される方のために、露出補正や露出ずらし（ブラケット）、測光インジケーターなどの機能についても説明しています。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でもシャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。このカメラには以下の4つの露出モードがあります。

P(プログラム)モード(37ページ参照)

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。
シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真などの一般撮影に最適です。

A(絞り優先)モード(38ページ参照)

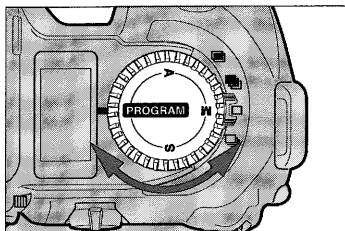
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。
ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のボケ具合をコントロールしたいときに使います。

S(シャッター速度優先)モード(40ページ参照)

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞り値を決めます。
スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときに使います。

M(マニュアル)モード(42ページ参照)

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。
絞りとシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、フラッシュメーターなど単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

露出モードの選び方

露出モードダイヤルを左右に回して、希望する露出モードをボディ上の指標に合わせます。

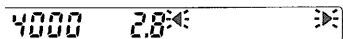
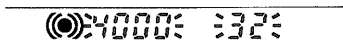
P(プログラム)モード撮影

このカメラのプログラムモードは、被写体までの距離や被写体の動き、撮影倍率などから撮影シーン(人物撮影、風景撮影、近接撮影など)を自動的に判別します。そして、そのシーンに適した絞り値とシャッター速度の組み合わせを自動的に決定します。シャッターチャンスに専念することができ、すばやく手軽に撮影できます。スナップ写真などの一般撮影に最適です。

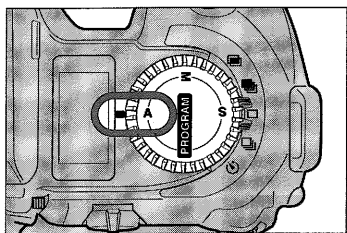
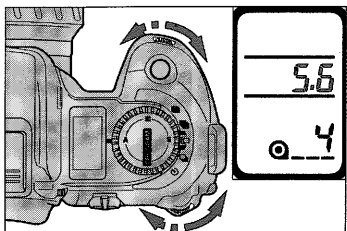
次のような点滅表示がファインダー内に現われたときは、撮影しても適正露出が得られません。詳しくは86ページの「表示が点滅したときは」をご覧ください。

4000 2.8

被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を越えています。

4000 32

被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値・シャッター速度の範囲を越えています。

A(絞り優先)モード撮影

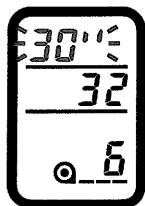
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。小さい数字の絞り値にすると背景をぼかした美しいポートレートが、大きい数字の絞り値にすると奥行きのある風景など背景までピントの合った写真が撮れます。

1.露出モードをAモードにします。

2.前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

● ━━▶ へ回すと絞り値が大きくなります。

● ■■■▶ へ回すと絞り値が小さくなります。

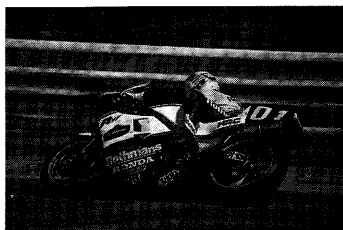
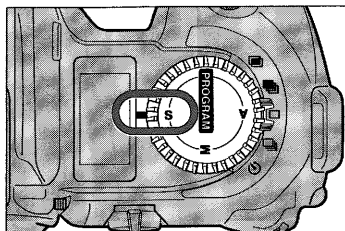
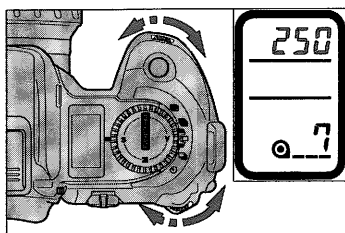
3.構図を決めて撮影します。

次のような点滅表示がファインダー内に現われたときは、撮影しても適正露出が得られません。詳しくは86ページの「表示が点滅したときは」をご覧ください。

露出オーバー(露光量が多すぎる)になります。点滅しなくなるまで絞り値を大きくしてください。

露出アンダー(露光量が少なすぎる)になります。点滅しなくなるまで絞り値を小さくしてください。

被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を越えています。

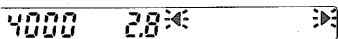
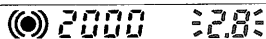
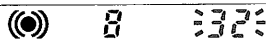
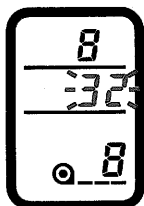
●Aモードの場合、シャッター速度は自動的に決まりますが、シャッター速度が遅くなると手ぶれしやすくなります。シャッター速度が遅くなるときは、三脚を用いるなどカメラがぶれないように気を付けてください。

S(シャッター速度優先)モード撮影

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞り値を決めます。速いシャッター速度にすると、動いている被写体をシャープに写し止めることができ、遅いシャッター速度にすると、被写体を流れるように表現することができます。

1.露出モードをSモードにします。

2.前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

● ➡ へ回すとシャッター速度が速くなります。

● ⇢ へ回すとシャッター速度が遅くなります。

3.構図を決めて撮影します。

次のような点滅表示がファインダー内に現われたときは、撮影しても適正露出が得られません。詳しくは86ページの「表示が点滅したときは」をご覧ください。

露出オーバー(露光量が多すぎる)になります。点滅しなくなるまでシャッター速度を速くしてください。

露出アンダー(露光量が少なすぎる)になります。点滅しなくなるまでシャッター速度を遅くしてください。

被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を越えています。

M(マニュアル)モード撮影

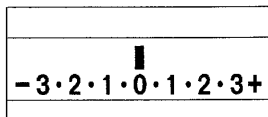
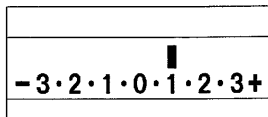
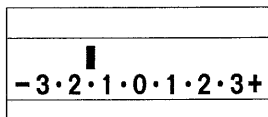
撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。したがって、撮影者の思い通りに露出をコントロールできます。カメラが測光した値との差が、測光インジケーター上に表示されます。

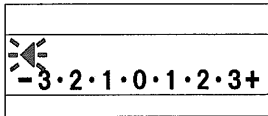
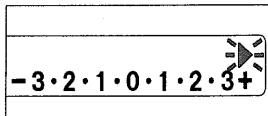
1.露出モードをMモードにします。

2.前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

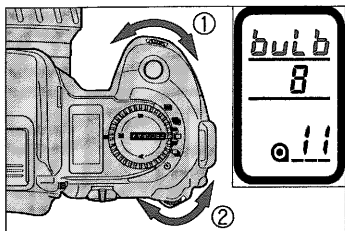
3.後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

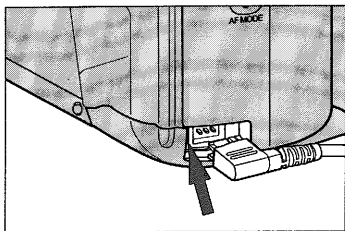
4.構図を決めて撮影します。

Mモードでは、測光インジケーターが、撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出値と、各測光方式に基づいてカメラが測光した値との差をお知らせします(メータードマニュアル)。

適正露出です

露出オーバーになります(+1段)

露出アンダーになります(−1.5段)

●露出の差が+3.5段以上になった場合は、測光インジケーター右横の三角マークが点滅します。
●露出の差が−3.5段以上になった場合は、測光インジケーター左横の三角マークが点滅します。

長時間露光(バルブ撮影)

シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたままになります。
長時間露光(バルブ撮影)のときは、カメラを三脚に取り付けることをおすすめします。また、リモートレリーズターミナルにリモートコードRC-1000S/L(別売)を取り付ければ、カメラぶれの防止に役立つとともに、シャッターボタンを押した状態で固定できます。

1.露出モードをMモードにします。

2.前ダイヤルを回して bulb を選び①、後ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます②。

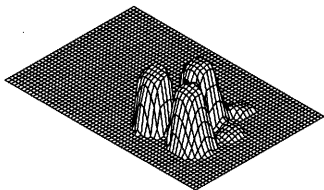
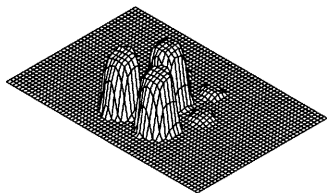
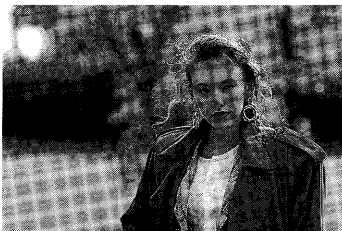
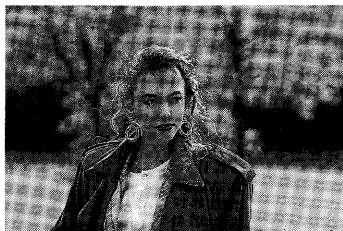
3.シャッターボタンを押し込みます。必要とする露光時間中押し続けてください。

バルブ撮影のときは、カメラを三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。また、リモートレリーズターミナルにリモートコードRC-1000S/L(別売)を取り付ければ、カメラぶれの防止に役立つとともに、シャッターボタンを押した状態で固定できます。リモートレリーズターミナルのカバーをはずしてお使いください。

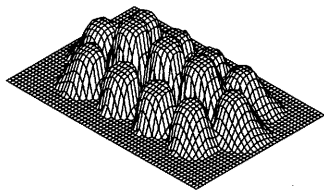
●ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを取り付けてください(9ページ参照)。

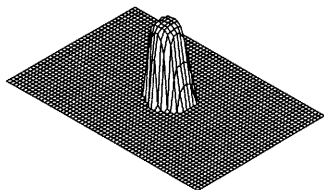
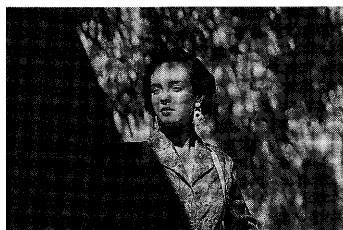
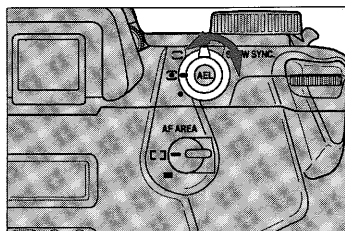
測光方式

このカメラは、撮影目的や光線状態によって3つの測光方式を使い分けることができます。

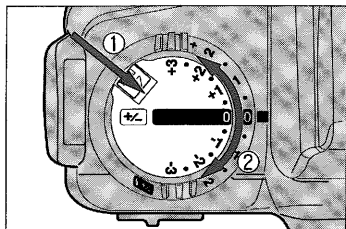
14分割ハニカムパターン測光（◉）

画面全体を14分割した多分割測光を行います。画面内には13個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。目で見た感じに一番近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

中央重点的平均測光（⊏⊐）

画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均測光します。逆光のときや被写体が画面中央にない場合などは、露出補正（48ページ参照）が必要となります。

スポット測光(●)

画面中央部のスポット測光サークル内のみを測光します。コントラスト(明暗差)の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影(49ページ参照)を行なってください。

測光方式の選び方

測光方式選択スイッチを回して、ボディの指標に希望の測光方式の絵表示を合わせます。

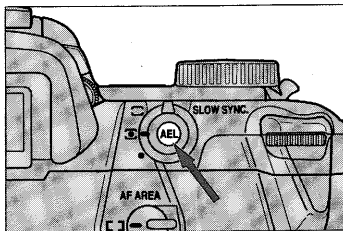
画面全体を明るくする・暗くする（露出補正）

フイルムに当たる光の量を調節して、画面全体を明るめにしたり暗めにしたりすることができます。フイルムに当たる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。このカメラでは、意図的に露出オーバー、露出アンダーにする（露出補正する）ことができます。

露出補正ロック解除ボタンを押しながら①、露出補正ダイヤルを回して希望の補正値を設定します②。

●−3.0から＋3.0まで、0.5段ごとに設定できます。
●露出補正を解除する場合は、上記と同じ操作で露出補正値を0にしてください。
●設定した露出補正値を常に測光インジケーター上に表示させておくことができます。詳しくは81ページをご覧ください。

露出の固定（AEロック撮影）

AEロックボタンを押すと、そのとき選択していた測光方式によって算出された露出が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定にしたまま連続撮影する場合などに使用します。

1.測光したいものにピントを合わせます。

2.AEロックボタンを押します。

●ファインダー表示部にAEロック表示（**AEL**）が点灯し、露出が固定されたことをお知らせします。

●ファインダー表示部の右の方に測光インジケーターが表示されます（AEロックボタンを押したときの測光インジケーター表示の意味については80ページ、81ページをご覧ください）。

250 AEL 5.6 -3·2·1·0·1·2·3+

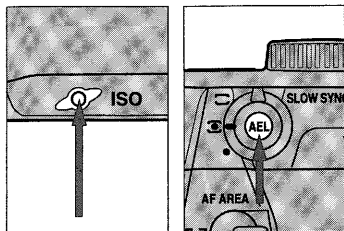
3.AEロックボタンを押したまま、写真の構図を変えます。

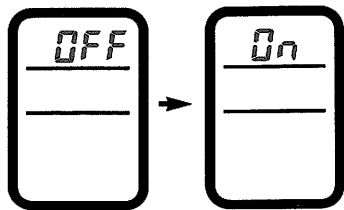
250 AEL 5.6 −3・2・1・0・1・2・3+

4.AEロックボタンを押したまま、ピントを合わせたい被写体にピントを合わせ直して、撮影します。

●露出は操作2.のロック(固定)された値で制御されます。
●同じ露出で連続して撮影する場合は、AEロックボタンを押し続けてください。
●AEとはAuto Exposureの略で、自動露出のことです。
●フラッシュが光るとき(ファインダー表示部に が点灯しているとき)は、AEロックボタンを押すと、スローシンクロ撮影になります(64ページ参照)。

<AEロックボタンの操作方法の変更>

以下のようにすると、AEロックボタンから手を離したままでもAEロック撮影ができます。一度AEロックボタンを押すと露出が固定され(手を離してもAEロックは働いたままです)、もう一度押すと、AEロックが解除されます。

1. フイルム感度設定ボタンを押したまま、AEロックボタンを押します。

●ボディ表示部に OFF と表示されます。

2. フイルム感度設定ボタンを一度押します。

●表示が On に変わります。

3. シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影状態にもどります。

●AEロックボタンの操作方法を通常の状態(AEロックボタンを押している間だけAEロックが働き、ボタンを離すと解除される)にしたいときは、同じ操作でボディ表示部に OFF を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

●AEロックボタンの操作方法を上記の方法に変更しているときでも、以下の操作をするとAEロックは解除されます。

・メインスイッチをLOCK位置にする
・レンズを交換する
・測光方式を変更する

多重露光

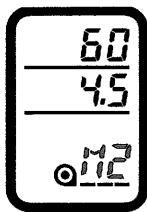
フイルムの1コマに、最高9回までの露光をすることができます。

1.ドライブモードレバーを ▣ に合わせます。

●ドライブモードレバーがこの位置では、多重露光の回数を設定することしかできません（シャッターは切れません）。

2.前または後ダイヤルを回して希望する多重露光の回数を設定します。

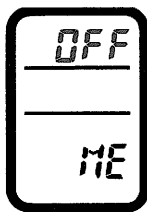
3.ドライブモードレバーを、□ ⧉ 🕓 のいずれかに合わせます。

●フイルムカウンターに **M1** が表示されます。

4.シャッターボタンを押して撮影します。

●1回目の露光が行なわれ、フイルムカウンターに **M2** と表示されます。フイルムは巻き上げられません。

5.引き続き、シャッターボタンを押して撮影します。

●操作2.で設定した回数分の露光が行なわれると、フイルムが次のコマへ巻き上げられ、フイルムカウンターは通常のコマ数表示に戻ります。多重露光の設定は解除されます。

<多重露光の途中で、多重露光の設定を解除したいときは>

設定回数分の露光を行なう前に多重露光を解除したい場合は、次の操作をします。

1.ドライブモードレバーを に合わせます。

2.前または後ダイヤルを回して、ボディ表示部に OFF を表示させます。

3.ドライブモードレバーを のいずれかに合わせます。

●フイルムが次のコマへ巻き上げられ、フイルムカウンターは通常のコマ数表示に戻ります。

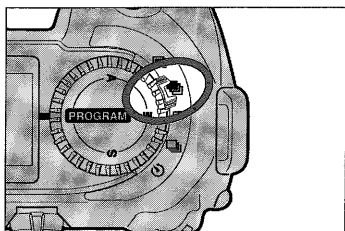
●設定回数分の露光を行なう前に電池を抜いたときは、多重露光は解除されますが、フイルムは次のコマへ巻き上げられません。多重露光撮影の前には必ず電池の容量を確認してください(11ページ参照)。多重露光撮影の途中では交換しないでください。

●多重露光撮影では、背景や被写体の状況によってはあらかじめ露出補正しておく必要があります。

●ネガフイルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

露出ずらし(ブラケット)撮影

リバーサルフイルムを使うときなど厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、その前後に少し露出をずらして何点か撮影することがあります。これをブラケット(露出ずらし)といいます。
このカメラのブラケットは、露出のずらし量0.5段で、撮影は±0、−0.5段、+0.5段の順に行なわれます。

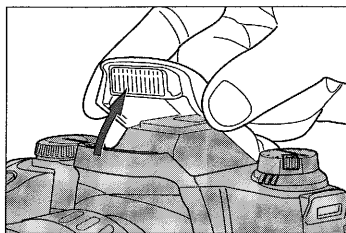
●フラッシュ発光時はフラッシュブラケットになります(66ページ参照)。

1. ドライブモードレバーを▣に合わせます。

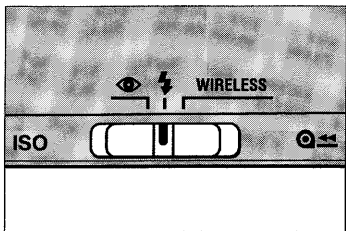
2. そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。3枚目の撮影が終わるまでシャッターボタンから指を離さないでください。

フラッシュを使って撮影しましょう

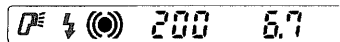
このカメラにはフラッシュが内蔵されていますので、手軽にフラッシュ撮影を楽しむことができます。
また、逆光での人物を美しく撮ることができる日中シンクロ撮影や、夜景を背景にした人物撮影で、人物・夜景両方をきれいに写すことができるスローシンクロ撮影、といった高度な撮影も自動で行なうことができます。
別売のプログラムフラッシュを使えば、ハイスピードシンクロ撮影やワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

内蔵フラッシュを使って撮影しましょう

このカメラの内蔵フラッシュは焦点距離28mm以上のレンズの画角をカバーします。

1.内蔵フラッシュを持ち上げます。

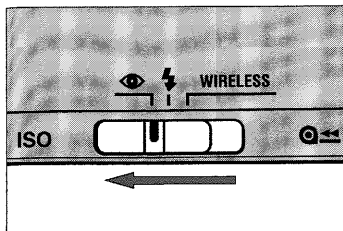
●フラッシュ撮影になるときは、ファインダー内に が点灯します。

2.フラッシュモードスイッチを または に合わせます。

3.フラッシュの充電完了を確認して、シャッターボタンを押します。

●フラッシュの充電が完了すると、ファインダー内に または が点灯します。

4.フラッシュ撮影が終わったらフラッシュを押し下げておきます。

●フラッシュ撮影時にはフイルム感度ISO25～1000のフイルムをお使いください。ISO1000より高感度のフイルムでフラッシュ撮影すると、適正露出が得られないことがあります。

眼が赤く写るのを軽減します

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が眼の中で反射して、まれに眼が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させることで、この現象を和らげることができます。

フラッシュモードスイッチを 👁 に合わせます。

●本発光の前に数回、小光量の発光（プリ発光）が行なわれます。人物撮影のときは写される人にその旨を伝えておくとよいでしょう。
●プリ発光のない通常のフラッシュ撮影にもどすには、フラッシュモードスイッチを ⚡ に合わせます。

内蔵フラッシュ使用時の注意

<フラッシュ光の届く範囲>

フラッシュの光が届く範囲には限度があり、それはレンズの焦点距離や絞り値、フイルムの感度によって異なります。内蔵フラッシュで撮影するときは以下の表を目安にしてください。

内蔵フラッシュによる撮影距離

フイルム感度 / 絞り値	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.0-4.2m	1.0-8.4m
F4	1.0-3.0m	1.0-6.0m
F5.6	1.0-2.1m	1.0-4.2m

●内蔵フラッシュを使って1m未満で撮影すると、写真の下部に影ができることがあります。

<内蔵フラッシュ使用時のレンズについて>

●内蔵フラッシュ撮影時はレンズフードを外してください。

●焦点距離28㎜未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周囲が暗くなることがあります。

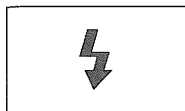
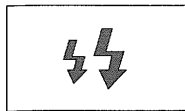
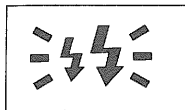
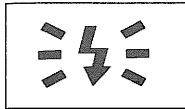
●下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影をするときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくはサービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

・AFズーム28-70㎜ F2.8G　・AFズーム28-85㎜ F3.5-4.5　・AFズーム28-135㎜ F4-4.5

●下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。

・ハイスピードAFアポテレ300㎜ F2.8
・AFアポテレ300㎜ F2.8
・ハイスピードAFアポテレ600㎜ F4
・AFアポテレ600㎜ F4

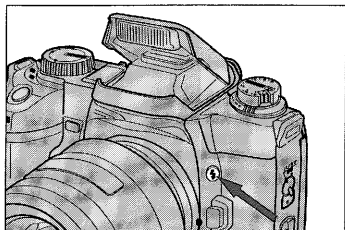
ファインダー表示部のフラッシュ表示

フラッシュの使用をおすすめします（この表示は、Pモード・内蔵フラッシュが下がっているとき、または、Pモード・外付けフラッシュの発光OFFのときに、被写体が、後方または斜め後方からの光で照明されていると表われることがあります）

フラッシュの充電が完了しました

本発光の前に数回、プリ発光が行なわれます

（撮影後にすばやく点滅）フラッシュ光が被写体に届きました

ハイスピードシンクロ撮影になります（61、63ページ参照）

（交互に点滅）ワイヤレスフラッシュ撮影が選択されています（68〜72ページ参照）

Pモードでのフラッシュ撮影

フラッシュが上がっているとき

フラッシュが必要なときは自動的に発光します。

<フラッシュを必ず発光させたいとき>
フラッシュ強制発光ボタンを押したままシャッターボタンを押します。

●次のような場合は、フラッシュを発光させるとよりきれいな写真が撮れます。
・明るい屋外で、帽子などで顔に影ができている人物を撮影する
・曇りの日に、屋外で人物を撮影する
・蛍光灯で照明されている、明るい室内で撮影する
●内蔵フラッシュが下がっているとき、「被写体が暗いわけではないのだが、フラッシュを発光させたほうがきれいな写真が撮れる」とカメラが判断した場合は、ファインダー内の が点滅します(59ページ参照)。内蔵フラッシュを上げてフラッシュ撮影されることをおすすめします。

フラッシュが下がっているとき

フラッシュは発光しません。

●フラッシュ撮影が禁止されている美術館などでの撮影や、夕景・夜景を撮影するときは、内蔵フラッシュは下げたままで撮影してください。

A/S/Mモードでのフラッシュ撮影

フラッシュが上がっているときは必ず発光します。下がっていると発光しません。

Aモードフラッシュ撮影

フラッシュなしの撮影の場合と同じで、希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。

Sモードフラッシュ撮影

フラッシュなしの撮影の場合とほとんど同じで、希望のシャッター速度を選ぶことができます。ただし1/200秒より速いシャッター速度は選べません。絞り値は自動的に決まります。

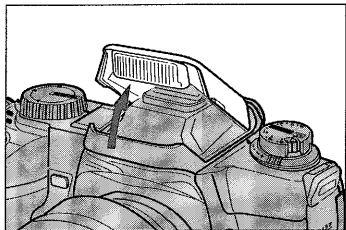
Mモードフラッシュ撮影

フラッシュなしの撮影の場合と同じで、希望の絞り値とシャッター速度を選ぶことができます。ただし1/200秒より速いシャッター速度は選べません。

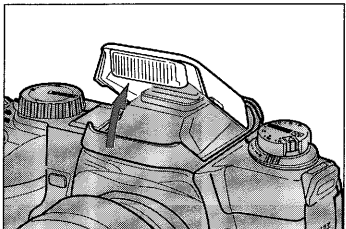
●Aモード、Mモードでは大きい数字の絞り値を設定するほど、Sモードでは大きい数字の絞り値が自動で設定されるほど、フラッシュ光の届く範囲は狭くなります(58ページ参照)。

逆光でのフラッシュ撮影（日中シンクロ撮影）

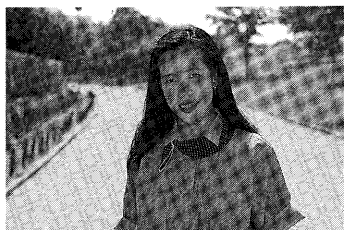
写したい人物に比べて背景が非常に明るい逆光などの場合、そのまま撮影すると背景が白くとんでしまいがちです。そのような場合、フラッシュ撮影をすると人物にフラッシュ光を補って明るさのバランスをとり、人物と背景の両方をきれいに写すことができます。

＜Pモードのとき＞

内蔵フラッシュが上がっていると、カメラが被写体の状況を判断して自動的に発光し、日中シンクロ撮影となります（このときファインダー内に が点灯します）。

● が点灯しないときに日中シンクロ撮影したい場合は、フラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影してください。

＜A/S/Mモードのとき＞

内蔵フラッシュが上がっていると、必ず発光します。

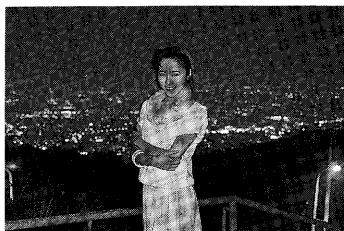
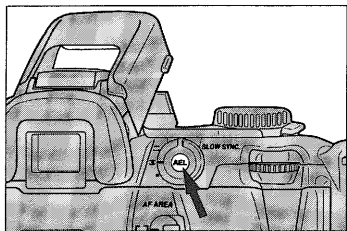
●A/Sモードでは、背景の明るさや設定した絞り値／シャッター速度によっては、露出オーバーになることがあります。その場合、ファインダー内のシャッター速度／絞り値が点滅してお知らせします。

ハイスピードシンクロ(HSS)撮影

従来の日中シンクロ撮影

ハイスピードシンクロ撮影

一般のフラッシュ撮影時には、これ以上速いシャッター速度ではフラッシュ撮影できない、というシャッター速度の上限があります。これを同調速度といい、このカメラでは1/200秒というシャッター速度がそれに当たります。別売のプログラムフラッシュ5400HSをこのカメラに取り付けて、5400HSをハイスピードシンクロモードにします。すると、この同調速度の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域(30秒～1/4000秒)でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果絞り値の選択幅が広がりますので、日中シンクロ撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がってみえるポートレートらしい写真を撮ることができます。
またAモードで日中シンクロ撮影するとき、背景が非常に明るくて露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出に描写することができます。

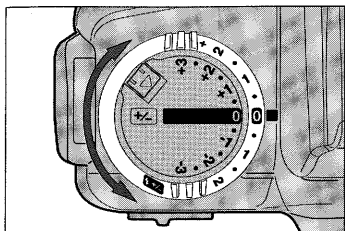
●ハイスピードシンクロ撮影となるときはファインダー内に が点灯します。
●ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がプログラムフラッシュ5400HSの液晶表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。
●蛍光灯下で撮影するとき、またはファインダー内に測光範囲外の警告表示が出るときは、適正露出が得られないことがありますので、1/200秒より高速のシャッター速度にはしないでください。
詳しい操作手順は、プログラムフラッシュ5400HSの使用説明書をご覧ください。

夜景を背景にしたフラッシュ撮影(スローシンクロ撮影)

夜景を背景にして記念撮影する場合など、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写しだされますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

P、Aモードでは次のようにしてスローシンクロ撮影ができます。

ファインダー内に P⚡ が点灯しているとき、AEロックボタンを押しながら撮影します。

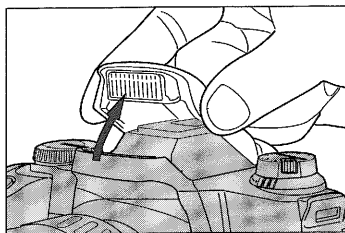
※AEロックボタンの操作方法を変更しているとき(AEロックボタンから手を離しても、AEロックの機能(働き)が残っているとき。51ページ参照)はご注意ください。ファインダー内に**AEL**が点灯している間はスローシンクロ撮影になります。
通常のフラッシュ撮影を行なうには、もう一度AEロックボタン押してAEロックを解除するか、AEロックボタンの操作方法を通常の状態(AEロックボタンを押している間だけAEロックが働き、ボタンから手を離すと解除される)にしてください(51ページ参照)。

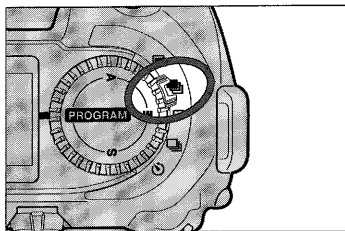
フラッシュの光量を補正できます(フラッシュ調光補正)

このカメラは、内蔵フラッシュまたは別売のプログラムフラッシュを使ってフラッシュ撮影するとき、フラッシュの光量を調節することができます。そのため、フラッシュ光の届かない(フラッシュ光以外の光だけで照明されている)背景の露出を変えることなく、フラッシュ光が届く主被写体だけの描写を補正することができます。

フラッシュ調光補正ダイヤルを回して希望の調光補正値を設定します。

●−2.0から+2.0まで、0.5段ごとに設定できます。
●フラッシュ調光補正を解除する場合は、上記と同じ操作で調光補正値を0にしてください。
●フラッシュ光およびフラッシュ光以外の光も含めた全体の露出レベルを補正するときは、露出補正(48ページ参照)の操作をしてください(このときフラッシュ調光補正も設定していると、フラッシュ光に対しては二重に補正がかかることになります)。

フラッシュを使った露出ずらし撮影(フラッシュブラケット)

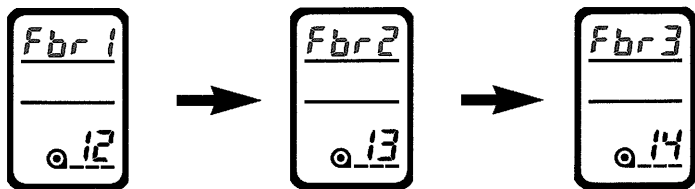
このカメラは、内蔵フラッシュまたは別売のプログラムフラッシュを使ってフラッシュ撮影するとき、フラッシュの光量を段階的に変化させることができます。そのため、フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出ずらし撮影ができます。このカメラのフラッシュブラケットは、ずらし量0.5段で、撮影は±0、−0.5段、+0.5段の順に行なわれます。

1.内蔵フラッシュを持ち上げます。または、カメラに取り付けたプログラムフラッシュの電源をONにします。

●内蔵フラッシュが下がっているとき、またはプログラムフラッシュの発光がOFFのときは、定常光の露出ずらし撮影になります(54ページ参照)。

2.ドライブモードレバーの指標を▣に合わせます。

3.フラッシュ充電完了の表示 を待って、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

4. 上記3.の操作を、もう2回繰り返します。

●フラッシュなしのときのブラケット(54ページ参照)と違って、1コマづつ3回シャッターを切る操作なのでご注意ください。

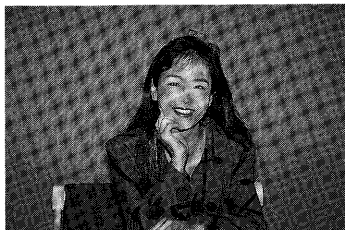
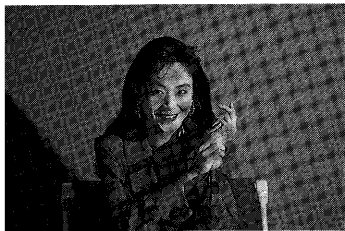
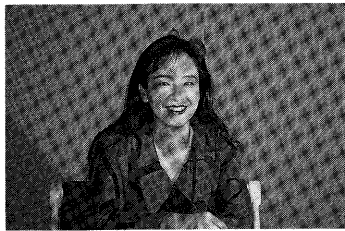
●フラッシュブラケット時は、シャッターボタンを離したときボディ表示部に**Fbr**と、次の撮影がフラッシュブラケットの何コマ目であるかが表示されます。

●フラッシュブラケット時は、Pモードで自動発光でも、フラッシュが必ず発光します。

●フラッシュブラケットを途中で(3コマ撮り終える前に)解除するには、ドライブモードレバーの指標を 以外の絵記号に合わせる、メインスイッチをLOCK位置にする、内蔵フラッシュを下げる、のいずれかの操作をしてください。

●外付けのプログラムフラッシュでフラッシュブラケットする場合は、途中で(3コマ撮り終える前に)フラッシュを取り外したり、発光をOFFにしたりしないでください。ブラケットの残りのコマの露出がすべてアンダーになる可能性があります。

●縦位置コントロールグリップVC-507のシンクロターミナルを通して外部フラッシュで撮影しているときは、フラッシュブラケットは使用できません。

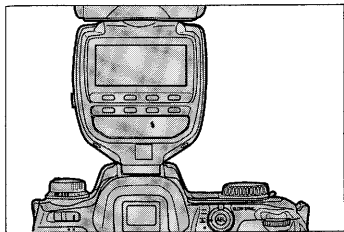
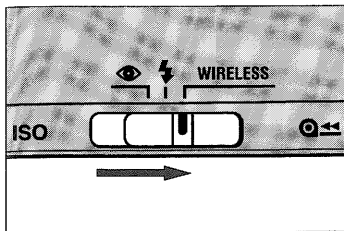
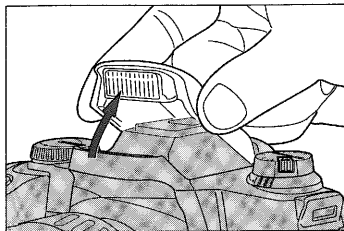
ワイヤレスフラッシュ撮影

別売のプログラムフラッシュ5400HS、5400Xi、3500Xiのいずれかが必要です。

写真①

写真②

写真③

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な印象を受ける写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます(写真②)。このようなフラッシュをカメラから離した撮影をオフカメラフラッシュ撮影と呼びます。

写真③はカメラの内蔵フラッシュと、オフカメラフラッシュの光量を1：2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。このような2灯以上のフラッシュの光量に比をつけた撮影を、光量比制御撮影と呼びます。

従来、一眼レフカメラではこのオフカメラフラッシュ撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続する必要がありました。このカメラは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができます。このフラッシュ撮影をワイヤレスフラッシュ撮影と呼びます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

【ワイヤレスフラッシュの設定方法】

1.フラッシュをONにし、カメラに取り付けます。
このカメラと組み合わせてワイヤレスフラッシュ撮影できるフラッシュは、5400HS、5400Xi、3500Xiの3機種です。

2.フラッシュモードスイッチを**WIRELESS**に合わせます。

3.フラッシュをカメラから取り外し、内蔵フラッシュを持ち上げます。

●ワイヤレスフラッシュ撮影時は、シャッター速度は自動的に1/60秒以下に設定されます。

【撮影方法】

このカメラは、内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400Xi、3500Xiを発光させます。信号が正しく受け取れるように以下のことに気を付けてください。

●室内など、暗いところで撮影してください。

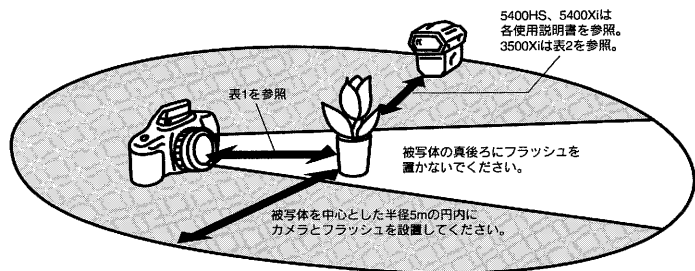
●下記の範囲内にカメラとフラッシュを配置してください。

1.カメラ、フラッシュ、被写体を上図のように設置します。

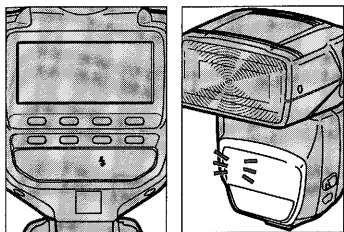
表1：ワイヤレスフラッシュ撮影時の被写体とカメラとの距離（単位メートル）

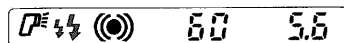
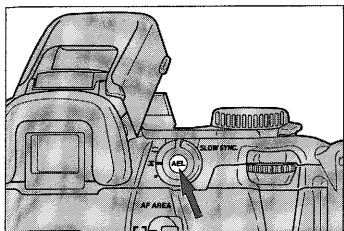
	フイルム感度	
絞り値	ISO100	ISO400
2	2.0-5.0	4.0-5.0
2.8	1.4-5.0	2.8-5.0
4	1.0-5.0	2.0-5.0
5.6	1.0-5.0 (1.0-4.0)	1.4-5.0
8	1.0-5.0 (1.0-2.8)	1.0-5.0

（ ）は光量比制御撮影の場合の被写体とカメラとの距離です。

●ワイヤレスフラッシュ撮影時の被写体とフラッシュとの距離について
5400HS、5400Xiをご使用の方は各フラッシュの使用説明書をご覧ください。
3500Xiをご使用の方は下の表を目安にしてください。

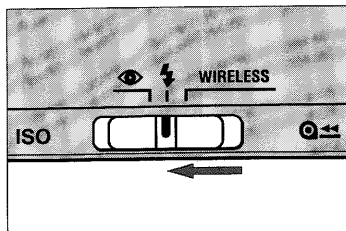
表2：フラッシュ（3500Xi）と被写体との距離（単位メートル）

	フイルム感度	
絞り値	ISO100	ISO400
2	1.4-5.0	2.8-5.0
2.8	1.0-5.0	2.0-5.0
4	0.7-4.5	1.4-5.0
5.6	0.5-3.2	1.0-5.0
8	0.35-2.25	0.7-4.5

2.フラッシュと内蔵フラッシュの充電完了を確認します。

●フラッシュは、背面の マークが点灯し、前面のAF補助光が点滅すると、内蔵フラッシュは、ファインダー内の が交互に点滅すると充電完了です。

3.カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

4.もう一度両方のフラッシュの充電を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

4.の操作のとき、カメラのフラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影すると、カメラの内蔵フラッシュも発光し、フラッシュと内蔵フラッシュの光量比を2:1にする光量比制御撮影ができます。

※AEロックボタンの操作方法を変更しているとき（AEロックボタンから手を離しても、AEロックの機能（働き）が残っているとき、51ページ参照）はご注意ください。ファインダー内に**AEL**が点灯している間はワイヤレススローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、AEロック状態とそうでない状態とが切り替わります。ワイヤレスフラッシュ撮影時は、AEロックボタンの操作方法を通常の状態（AEロックボタンを押している間だけAEロックが働き、ボタンから手を離すと解除される）にもどしておくとよいでしょう。

[ワイヤレスフラッシュの解除]

1. フラッシュをONにし、カメラに取り付けます。

2. フラッシュモードスイッチを、⚡または👁に合わせます。

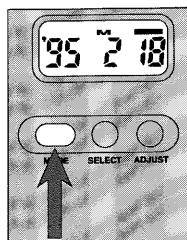
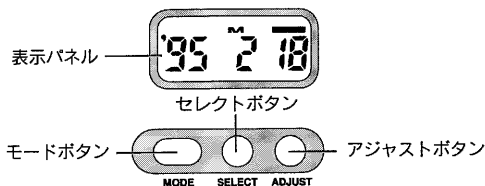
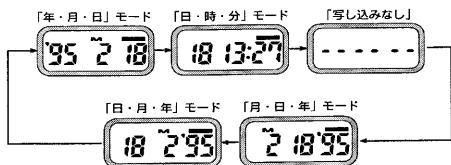
<ワイヤレスフラッシュリモコンを使ったワイヤレスフラッシュ撮影>

内蔵フラッシュの代わりに、別売のワイヤレスフラッシュリモコンを使っても同様のワイヤレスフラッシュ撮影ができます。また、ワイヤレスフラッシュリモコンを使えば、2台以上のフラッシュを用いてワイヤレスフラッシュ撮影するとき、それぞれのフラッシュの光量比を1：2または2：1にした光量比制御撮影もできます。
詳しくは、ワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。
ワイヤレスフラッシュリモコンはα-9Xiのアクセサリーとして発売された製品ですが、このカメラに取り付けても使用できます。操作方法はα-9Xiに取り付けた場合と同様です。

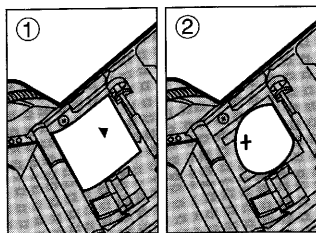
このカメラをより有効にご活用いただくために

この章では、多彩な撮影を楽しむためのさまざまな機能について説明しています。
ぜひご一読いただき、このカメラをより有効にご活用ください。

日付・時間を写し込むには

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。パノラマ写真にも写し込むことができます。

モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

●写し込み位置に明るい色（空や白い壁など）があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。

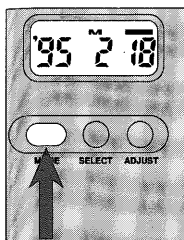
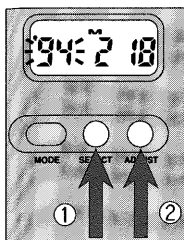
写し込み用電池の交換

写し込んだ文字が薄くなってきたら電池を交換してください。CR2025を1個使用します。

裏ぶたを開けて、電池室のふたを▶の方向に押して開けます①。

古い電池を取り出し、新しい電池の＋側を上にして電池室に入れ②、ふたを閉めます。

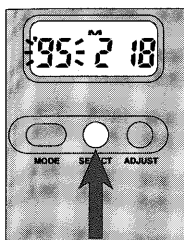
●ふたを閉めるときは、右部を差し込んでから、左側へ押し込みます。

●写し込み用電池を交換した後は、日付・時間を修正してください。

日付・時間の修正

1.モードボタンを押して、変更したい表示を選びます。

2.セレクトボタンを押して①変更したい数字を点滅させ、アジャストボタンを押して②数字を変更します。

●修正中は、セレクトボタンを押すたびに、年→月→日または時→分→：の順に数字が点滅します。

●アジャストボタンを押し続けると、数字は連続して変わります。

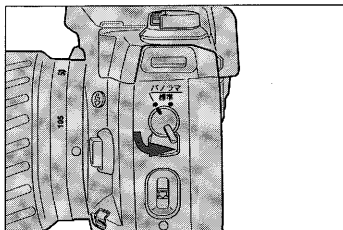
●秒を時報に合わせるには、：を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

3.上記2.の操作を繰り返して、変更が終了したら、点滅している数字がなくなり、「━」が点灯するまでセレクトボタンを押します。

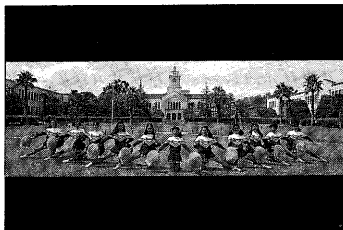
●日付写し込み機能は0～50℃の範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。

●コイン型電池はお子様の手の届かない場所に置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

パノラマ写真を写してみましょう

撮影の途中でも、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

パノラマへの切り替え

1.パノラマ切り替えレバーをパノラマ側にします。

●ファインダーがパノラマ撮影用に切り替わります。

2.構図を決めて撮影します。

●標準撮影にもどすときは、パノラマ切り替えレバーを標準側にします。

●パノラマ切り替えレバーは、止まるまで（レバーの指標 ■ がきちんと ● を差すまで）確実に操作してください。

●パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりも、やや狭くなることがあります。

●広角レンズで撮影するとパノラマらしさがよりいっそう効果的に表現されます。

●カメラを破損する恐れがありますので、パノラマアダプターは使用しないでください。

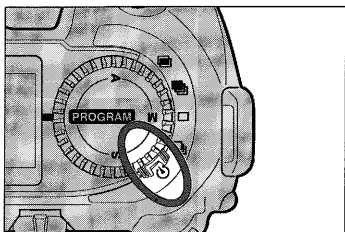
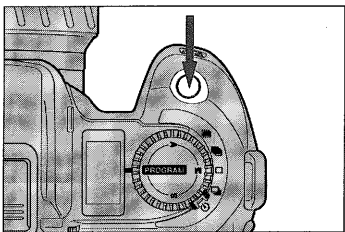
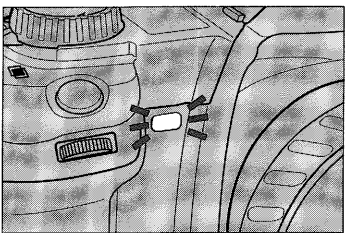
●パノラマ撮影したフイルムには、図のように上下に露光されない部分があります。

●パノラマ撮影してもフイルムの撮影枚数は変わりません。

●パノラマ写真の一般的なプリントサイズは90㎜×250㎜です。

●パノラマ撮影したフイルムを現像・プリントに出すときは、「パノラマ仕上げ」または「パノラマプリント」と指定してください。通常仕上げまたは通常サイズでプリントされると上下に黒い帯が写し込まれます。

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1.ドライブモードレバーの指標を ⏲ に合わせます。

2.構図を決め、ピントを合わせてからシャッターボタンを押し込みます。

●セルフタイマー作動中はカメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影のタイミングの約3秒前から点滅の間隔が短くなり、撮影の直前約1秒間はランプが点灯状態になります。

●シャッターボタンを押す前にセルフタイマーを解除するには、ドライブモードレバーの指標を ⏲ 以外の絵記号に合わせます。
●作動中のセルフタイマーを止めるには、ドライブモードレバーの指標を ⏲ 以外の絵記号に合わせるか、メインスイッチをLOCK位置にします。

連続撮影／1コマ撮影

連続撮影（⧉）

シャッターボタンを押している間、1秒間に2コマの速さで連続して撮影されます。

●このカメラはピントが合うまでシャッターが切れませんので、1秒間に2コマの速さで連続撮影できないことがあります。

1コマ撮影（□）

シャッターボタンを押すたびに1コマ撮影し、次のコマにフイルムを巻き上げます。

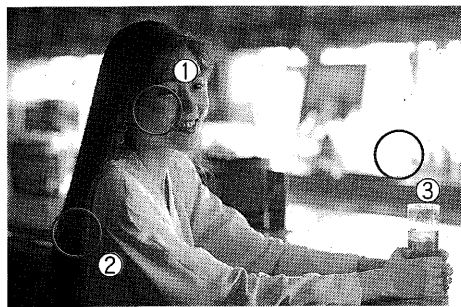
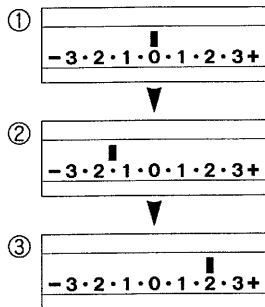
連続撮影／1コマ撮影の選び方

ドライブモードレバーの指標を⧉（連続撮影）または □（1コマ撮影）に合わせます。

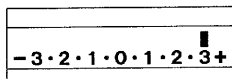
測光インジケーター

測光インジケーターはP、A、S各モードでAEロックボタンを押すと表示されます。インジケーター上には指標 ▮ が表示されます。この指標は、AEロックボタンを押したとき設定していた測光方式による測光値を基準（0）とし、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値と基準との差を示します。測光方式をスポット測光にして測光インジケータを使えば、撮影画面内のある特定の部分（スポット測光サークル内）の露出（明るさ）の差を読み取ることができます。

※AEロックボタンの操作方法を変更しているとき（AEロックボタンから手を離しても、AEロックの機能（働き）が残っているとき。51ページ参照）は、ファインダー内に**AEL**が点灯している間中、測光インジケーターと指標が表示されます。

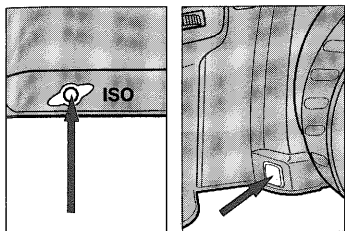
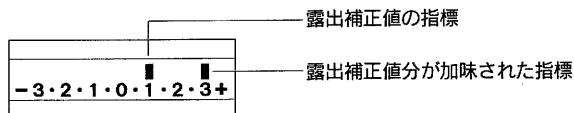
（例）①にスポット測光サークルを合わせ、AEロックボタンを押して露出を固定、その後AEロックボタンを押したまま構図を変え、スポット測光サークルを②、③へと合わせる。

測光インジケーターの変化

上の例では、肩の辺りの影になっている部分②は人物の顔①よりも1.5段暗く、背景の明るい部分③は肩の部分②より3.5段明るいことを意味します。

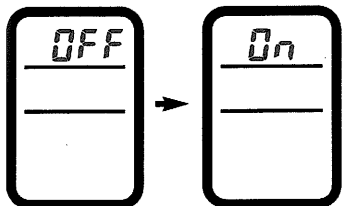
露出補正（48ページ参照）をしている場合は、本来の基準との差に露出補正分が加味された位置に指標が表示されます。上の例で、たとえば露出を＋1.0段補正している場合、③の表示は以下のようになります。

−3・2・1・0・1・2・3+

＋2.0（本来の基準との差）＋1.0（露出補正分を加味）→＋3.0の位置に指標が表示される

●Mモード時は常に測光インジケーターが表示されます。インジケーター上には、撮影者が設定したシャッター速度と絞り値による露出と、そのとき選択していた測光方式によって算出された露出(絞り値とシャッター速度との組み合わせ)との差が指標で表示されます(メータードマニュアル表示。43ページ参照)。

<露出補正値を常時測光インジケーターに表示させるには>

露出補正値を常時測光インジケーターに指標で表示させることができます。

1. フイルム感度設定ボタンを押したまま、プレビュー(絞り込み)ボタンを押します。

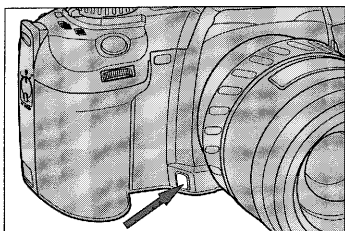
●ボディ表示部に OFF と表示されます。

2. フイルム感度設定ボタンを一度押します。

●表示が On に変わります。

3. シャッターボタンを半押しすると、通常の撮影状態にもどります。

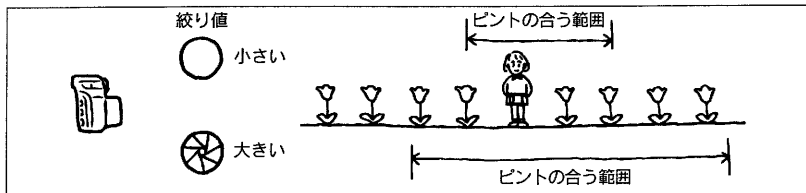
●露出補正値を表示させない状態にしたいときは、同じ 1. 2. の操作でボディ表示部に OFF を表示させ、シャッターボタンを半押しします。

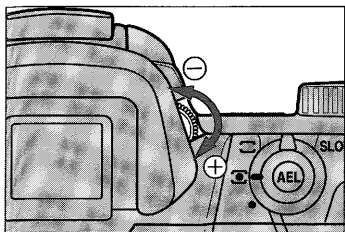
プレビュー（絞り込み）

プレビュー（絞り込み）ボタンを押すと、撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のボケ具合等を確認することができます。

プレビュー（絞り込み）ボタンを押します。

●押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。ピントと露出は固定されます。
●プレビューボタンを押している間は、シャッターボタン以外のボタンを受け付けません（操作しても何も変化しません）。

●プレビュー時には、アキュートマット（焦点板）の特性上、ファインダー中央部が陰ることがあります。
●ボタンを離すとプレビュー（絞り込み）は解除されます。このときミラーが動くため、一瞬ファインダー内の像が見えなくなります。
●プレビューボタンを押したとき、ピントが合っていなかった（フォーカス表示の ● が点滅、または (( )) が点灯する）場合は、シャッターが切れません。
●ハイスピードシンクロの制御になるとき（ファインダー内に $\sharp_H$ が点灯するとき）は、プレビューボタンを押しているとシャッターが切れません。

ピントを合わせた被写体の前後には、実用上写真としてピントが合って写る範囲があり、これを「被写界深度」といいます。F1.4、2など絞り値が小さい（絞りが開放側になる）ほど被写界深度は浅く（ピントが合って写る範囲は狭く）、F22、32など絞り値が大きい（絞りが絞り込まれる）ほど被写界深度は深く（ピントが合って写る範囲は広く）なります。

表示がはっきりと見えないときは（視度調整）

ファインダーの表示がはっきりと見えないときは、視度調整ダイヤルでファインダー視度を調整してください。軽度の近視・遠視・老眼なら、眼鏡をかけずにファインダー像を鮮明に見ることができます。

1. レンズを取り外し、カメラをなるべく明るいところに向けます。
2. フォーカスエリアが最もはっきり見えるよう、視度調整ダイヤルを、遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ、回します。

●視度調整アタッチメント1000を併用することもできます。本体の視度調整機構を用いてもファインダー像がはっきり見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。

こんなことも知って おきましょう

この章では、このカメラをお使いになる上で知っておいて欲しいことや、お使いになる際の注意事項について説明しています。
またこのカメラを末長くご愛用いただくためにも、90〜92ページの「取り扱い上の注意」および「手入れと保管の仕方」はぜひお読みください。

このカメラと組み合わせて使えるもの

※このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計製造管理されているレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。当社製品以外の付属品をお使いになる場合、いかなる事象が生じるかは予想いたしかねます。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ(MDレンズやMCレンズなど)はご使用になれません。

●内蔵フラッシュを使ったときのレンズの制限については、58ページをご覧ください。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような撮影距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

●プログラムフラッシュ5400HS、Xiシリーズフラッシュ(5400Xi、3500Xi、2000Xi)およびiシリーズフラッシュ(5200i、3200i、2000i)は、そのままご使用になれます。この場合、

Pモード：フラッシュをONにすると、必要に応じて自動発光します。フラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影すると、フラッシュは必ず発光します。

A/S/Mモード：フラッシュをONにすると、必ず発光します。

●AFシリーズのフラッシュ(4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AF)をご使用になる場合は、別売のフラッシュシューアダプターFS-1100を使ってカメラに取り付けてください。このとき、Pモードでもフラッシュが ONのときは必ず発光します。また、フラッシュのAF補助光は発光しません。

●AFシリーズ以前のフラッシュ(Xシリーズなど)は使用できません。

その他

以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。

・インテリジェントカード
・データレシーバーDR-1000
・コントロールグリップCG-1000
・縦位置コントロールグリップVC-700

表示が点滅したときは（露出の警告）

そのまま撮影すると適正露出が得られないときは、表示が点滅してお知らせします。点滅しないように設定を変えてください。

モード	表示	原因	処置
P/ A/ S/ M	4000 32 15	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を越えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	4000 32 16 4000 32	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、カメラのシャッター速度の範囲を越えています。	
A	4000 2.8 17 4000 2.8	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラのシャッター速度の範囲を越えています。	シャッター速度が点滅しないように絞り値を変更します。
S	8 32 18 8 32	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を越えています。	絞り値が点滅しないようにシャッター速度を変更します。

こんなときはこうしてください

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせ下さい。

ボディ表示部に*HELP*が表示される

→電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して***HELP***が表示される場合は、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせ下さい。

メインスイッチをONにしても、ボディ表示部に何も出ない

→電池が消耗していませんか？ 新しい電池と交換してください（10ページ参照）。

絞り値表示が"--"になり、シャッターが切れない

→レンズが正しく取り付けられていますか？ 正しく取り付けてください（12ページ参照）。

→AFレンズ信号接点が汚れていませんか？ 乾いた柔らかいきれいな布で汚れを軽くふき取ってください。

→レンズとカメラとの間で信号のやりとりが正しく行なわれていない状態（レンズが取り外されているときなど）では、絞り値表示が"--"になり、フイルムが入っている場合は、誤作動を防ぐためシャッターが切れない仕組みになっています。したがって、天体望遠鏡などにカメラを取り付けたときはシャッターが切れませんので、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせ下さい。

ピントが合わない

→ボディ表示部に**M.FOCUS**が表示されていませんか？ フォーカスモード（AF/M）ボタンを押してオートフォーカスにしてください（32ページ参照）。

→被写体に近づきすぎていませんか？ レンズの最短撮影距離より離れて撮影してください。

→オートフォーカスの苦手な被写体（31ページ参照）を撮影していませんか？ 手動によるピント合わせまたはフォーカスロックを行なってください（29ページ、32ページ参照）。

→フラッシュを下げたままにしていませんか？ フラッシュ撮影が可能なところではフラッシュを上げてください。AF補助光が発光してピントを合わせます。

主な性能

オートフォーカス

方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCDラインセンサー　検出範囲：EV－1～19（ISO100）　3モードAF制御切り替え（自動切り替え（オート）／コンティニュアスAF／ワンショットAF）動体予測フォーカス制御

AF補助光

内蔵フラッシュによる補助光　低輝度かつ低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約1～5m　プログラムフラッシュ装着時、必要に応じてフラッシュの内蔵AF補助光に自動切り換え

測光方式

TTL開放測光多分割測光（測光値ファジイ演算）　スポット測光　中央重点的平均測光　受光素子：多分割ハニカムパターンSPC（シリコンフォトセル）　フラッシュ光調光用SPC　測光範囲：EV0～20　スポット測光時はEV3～20（ISO100、F1.4レンズ）

シャッター

電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/4000～30秒、バルブ（露出時間はカメラの電池の寿命により制限）　フラッシュ同調最高速度：1/200秒　ハイスピードシンクロ機能使用時は1/4000秒　ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/60秒

内蔵フラッシュ

ガイドナンバー：12　照射角：焦点距離28㎜をカバー　充電時間：約2秒（カメラと電源を共有）　手動アップ／ダウン　赤目軽減用プリ発光可能　プログラムフラッシュとの組み合わせでワイヤレスフラッシュの制御可能

パノラマ撮影

途中切り換え可能

ファインダー

視野率：縦92％×横94％　倍率0.75倍（50㎜レンズ、∞位置）　視度：－1ディオプトリー　視度調整機構（－2.5～＋0.5ディオプトリー）内蔵　アイポイント：接眼枠より18.4㎜

フォーカシングスクリーン

全面アキュートマット（G型）

フイルム給送

オートローディング(1コマ目まで自動送り) 1コマ撮影/連続撮影(2コマ/秒)/多重露光(2コマ〜最大9コマ)/オートブラケット/セルフタイマー切り換え可能 自動巻き戻し 途中巻き戻し可能

巻き戻し時間:24枚撮りフイルム 約15秒 36枚撮りフイルム 約23秒

フイルム感度

DXコード付きフイルム使用時は自動設定(ISO25〜5000) 手動設定可能(ISO6〜6400、1/3EVステップ) DXコードの付いていないフイルム使用時は前回のフイルム感度を設定 フラッシュ撮影時はISO25〜1000のフイルムを推奨

撮影可能本数

温度	20℃	−20℃
フラッシュ使用しない	約60本	約20本
フラッシュ50%使用	約25本	約10本
フラッシュ100%使用	約15本	約5本

試験条件 24枚撮りフイルム、新品電池使用
使用レンズ:AFズーム24-85㎜/F3.5-4.5、レンズを1コマ毎に無限遠から最近接まで3回往復させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後レリーズ

※36枚撮りフイルムの場合は、上記の2/3程度の本数になります。

※電池は、実際に撮影しなくてもカメラを操作することで消耗します。電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをLOCKにしてください。

大きさ

156(幅)×98(高さ)×73.5(奥行き)㎜

重さ

585g(電池別、クォーツデート用電池含む)

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は都合により予告なく変更することがあります。

取り扱い上の注意

電池について

●電池を火の中に投入したり、充電、ショート、分解、加熱したりすると、発熱、発火、破裂の原因となり非常に危険ですので、絶対にしないでください。

●電池に記載されている注意書きを守ってください。

●お子様の手の届くところに置かないでください。

●電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

●新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、電池の容量チェックの際に が点灯することがあります。その場合、いったんメインスイッチをLOCKにし、再度ONにする操作を数回繰り返すと容量が回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は−20〜50℃です。

●直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。

●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温にもどせば正常に作動します。

●湿度の高いところにカメラを放置しないでください。

●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

取り扱いについて

●フラッシュが発光するときは、発光部が熱くなります。発光時には、発光部に触れないでください。また、皮膚や物を密着させて発光させないでください。

●カメラに衝撃を与えないでください。

●このカメラは防水構造ではありません。海辺で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

●このカメラの内部には高電圧回路があります。ご自分で分解したり修理なさらないでください。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

●カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。

●レンズ面を清掃するときは、レンズブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ上にかけることはお避けください。

●シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。また、内部をボンベブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。

●カメラ内部のミラーは、多少ほこりがついていても露出等には影響しません。

●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対使わないでください。

●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

●使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。

●保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

●防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。

●保管中も時々シャッターを切るようにして、使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

●前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。

●万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。

●アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-3356-9111

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10:00〜12:00、13:00〜17:00（土・日・祝日定休）

サービスセンター・サービスステーション

製品の故障や修理についてのご相談をお受けいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160-0022	東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）	TEL（03）3356-6281㈹
大　阪	〒530-0001	大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）	TEL（06）6341-6501㈹

サービスステーション

仙　台	〒980-0802	仙台市青葉区二日町14-15（アミ・グランデ二日町ビル3階）	TEL（022）261-3431㈹
横　浜	〒231-0015	横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）	TEL（045）663-1445㈹
名古屋	〒460-0002	名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）	TEL（052）239-1251㈹
福　岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3-4-10（コマバビル1階）	TEL（092）441-6121㈹

9223-2097-61 N-H110